



2019年度 出前講座報告書

NO.7

2019年12月16日 会津保健福祉事務所

保健活動に役立つ行動科学的コミュニケーション： 患者中心の意思決定と動機づけ

日々の保健活動において、保健従事者は患者さんや利用者さんと多くの場面で、日常的に面接を行っています。その中には、対応が困難な事例もあります。本日は、患者さんや利用者さん中心の意思決定支援にむけた効果的な面接スキルについて学びました。



講義の様子



講義では、臨床で必要とされる患者さんとの合意形成の手法である共有意思決定(SDM) や動機づけ面接手法(MI)のプロセスについて学びました。さらに、この共有意思決定や動機づけ面接法の土台となるコミュニケーションスキルであるOARS (オールズ)について学びました。

講師紹介



略歴

■2016年9月福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション講座助教として勤務し、ふくしま国際医療科学センター放射線医学県民健康管理センター健康調査支援部門リスクコミュニケーション室を兼務し、現在に至る。臨床心理士として、県内外で、認知行動療法による不安症の治療を提供している。

専門領域

■臨床心理学、精神医学、心理統計学を専門領域とし、認知行動療法に基づく精神疾患の治療と予防、自殺予防、放射線不安の要因と影響の研究及び実践。

福島県立医科大学医学部
健康リスクコミュニケーション学講座
竹林由武

グループワークの様子

グループワークでは、講義内容を踏まえ、1対1となりQARS(オールズ)コミュニケーションスキルの実際を体験しました。互いのその反応から実践の難しさを体感しつつもOARSを意識したコミュニケーションの重要性について共有し、学びを深めました。



▶グループワークでは、患者さん主体のコミュニケーションスキルであるQARSを実践しました。

アンケート集計結果

参加者は28名、アンケート回収は28名でした。

	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	100%
時間配分は適切だった	96%
進行は適切だった	96%
講義について	
講義内容が理解できた	96%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	100%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	100%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	96%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	82%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	82%

参加者の感想(一部抜粋)

- 聞き手の技量一つで相手の行動変容にどう影響するかを知ることが出来てとても良かった。
- 特定保健指導の際、相手にどう接したら危機感や行動変容の意識を持ってもらうことが難しいと感じていたのでとても勉強になりました。
- 自分のコミュニケーションを振り返ることが出来ました。患者さんと話す際は意識して、患者さんの思いを聞いていけたらと思います。
- コミュニケーションスキルを意識しながら、今後の住民の会話の中で、活用したいと思いました。

復習ポイント

- ✓ Open Ended Question
開かれた質問
 - ✓ Affirm
是認
 - ✓ Reflective listening
聞き返し
 - ✓ Summarize
要約
- を意識した対話

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計